



本康歯科ニュース



世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！」と思ってもらえる歯科医院めざして！

口の中にもがんはある！

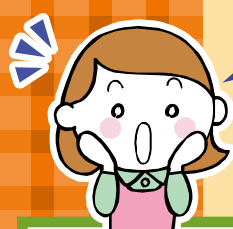
口の中にできるがんは、人によって症状の程度にかなり差が出ます。いち早く気づいて早期発見・治療できる方もいれば、なかなか治らない口内炎や歯周炎だと違い、がんを悪化させてしまう方もいるのが現状です。ただ、口の中にできるがんは内臓のがんと違い、目で見ることができます。口の中は普段から目にする機会があるため、日々の意識をちょっと変えるだけで見つけれられる可能性はグンと高まります。

口の中にできるがんは、初期のものではほとんど症状がありません。2cm以下で転移のない初期のものでは、大半の方がよくなります(Stage Iの5年生存率は85~95%)。口のがん全体の5年生存率は70~80%と伸びていますので、怖がらずに早く受診することが大事です。口腔がんになりやすい人の5つの特徴。1. 50歳以上の男性(男女比は3:2) 2. 喫煙 3. 多飲酒 4. 口の中が汚い 5. 合わない入れ歯や被せ物。

日本の口腔がんの発生する頻度はがん全体の1%程度です。口内炎と区別がつかないケースがあるため、厄介です。口内炎にはない、口腔がんの特徴をまとめました。

■小さいうちは痛くないことが多い ■しこりがある ■出血しやすい ■白や赤の斑点がある ■ただれてデコボコしている ■周りとの境がはっきりしない 2週間以上にわたり上記の症状が続いていたら、口腔がんの危険性があります。そのほか、口内炎は口の唇の裏側などにできるケースも少なくないですが、口腔がんは約60%が舌にでき、特に舌の横側にできやすいのが特徴です。頬の粘膜、口庭、下あごの歯肉にもできます。このように口腔がんの特徴をしっかりと押さえれば自分で発見することも可能です。

特に口は食事、会話、呼吸、見た目でも命を支える大事な部分です。かかりつけの歯科医院があると、むし歯や歯周炎のメンテナンスだけでなく、口腔がんの発見にもつなげることができます。ぜひ歯科医院で検診を。



えー！ホント？

“歯とお口”のトリビア



現代では“真っ白な歯”が美しいとされていますが、その昔日本では漆のような“真っ黒な歯”が美しいとされていました。これは「お歯黒」と呼ばれる習慣で、その歴史は古く、紀元前3世紀頃の古墳にもお歯黒をした形跡があったそうです。平安末期から戦国時代にかけては成人の証とみなされ、いつしか既婚女性の身だしなみのひとつとなりました。しかし、1870年に明治政府から禁止令が出され、姿を消してしまいます。日本の近代化に伴い失われたお歯黒ですが、実はむし歯予防の効果があったのではないかと推測されています。お歯黒の主成分は、タンニンと酢酸を鉄に溶かした液で、これらにはむし歯菌が放出する酸から歯を守る力があります。実際に、お歯黒を止めるとむし歯になる女性が増加したそうですから、見た目のこだわりだけでなく歯を守るための先人の知恵だったのかもしれない。

